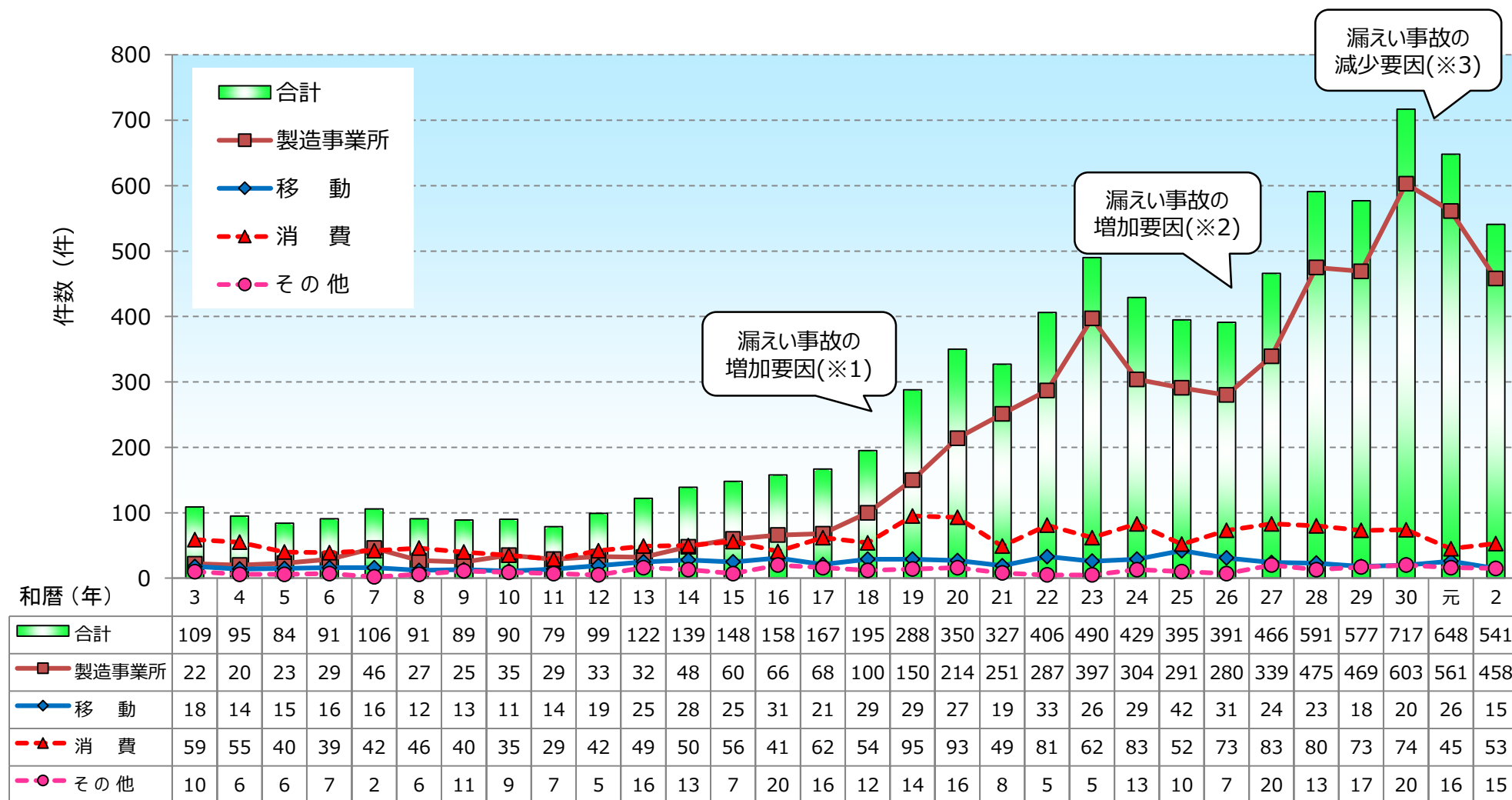


(参考資料)
高圧ガス及び液化石油ガスに係る
「事故届出」の状況

2021年2月24日

経済産業省
産業保安グループ

高圧ガス事故届出全体の件数推移

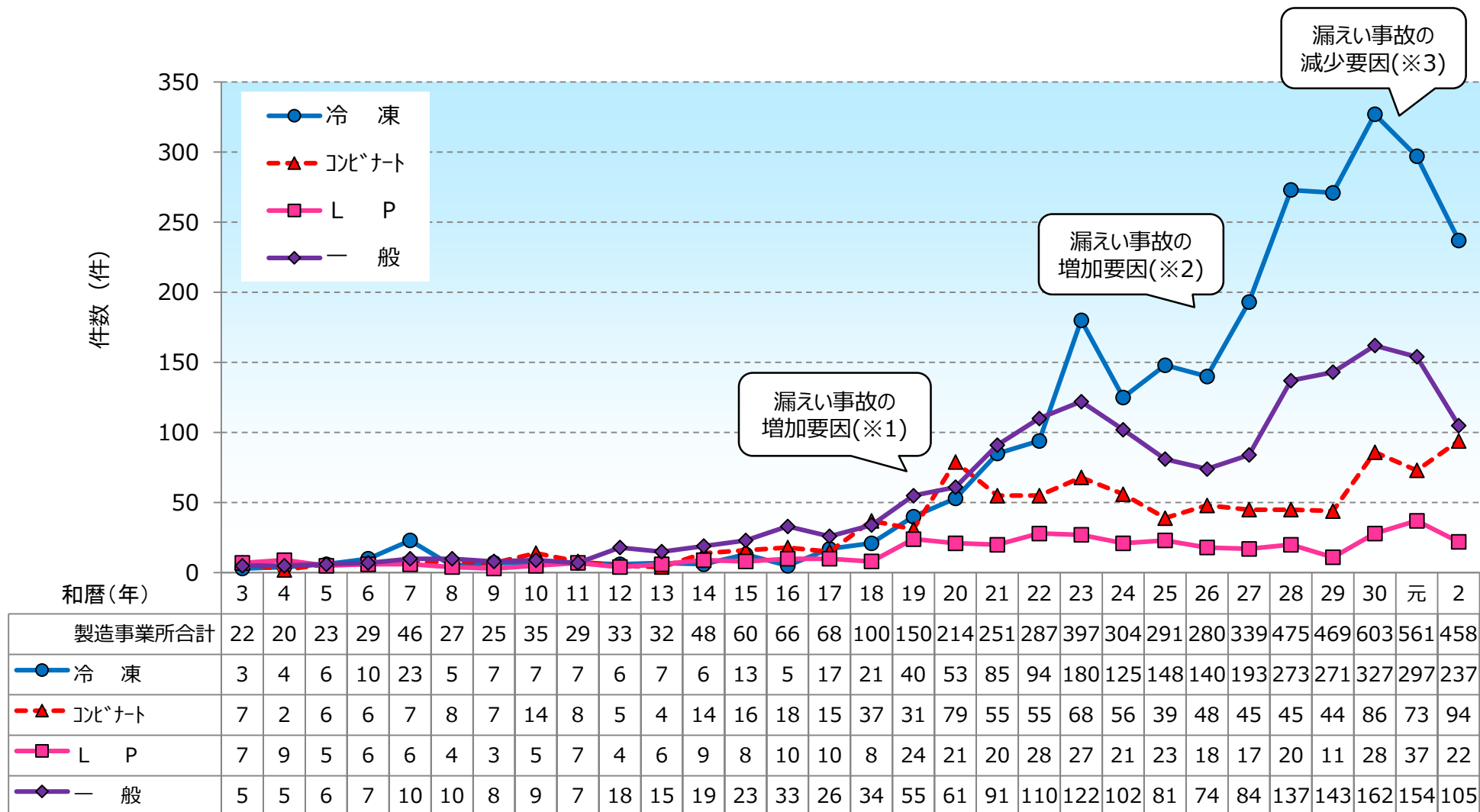


※ 1 高圧ガス保安法事故措置マニュアルの改正により、日常点検等において簡易な措置で停止した噴出・漏えい以外の噴出・漏えいについては事故対象であることを明確化。

※ 2 フロン回収・破壊法の改正により、①事業者には算定漏えい量が報告義務、②全機器を対象とした日常点検が義務化。

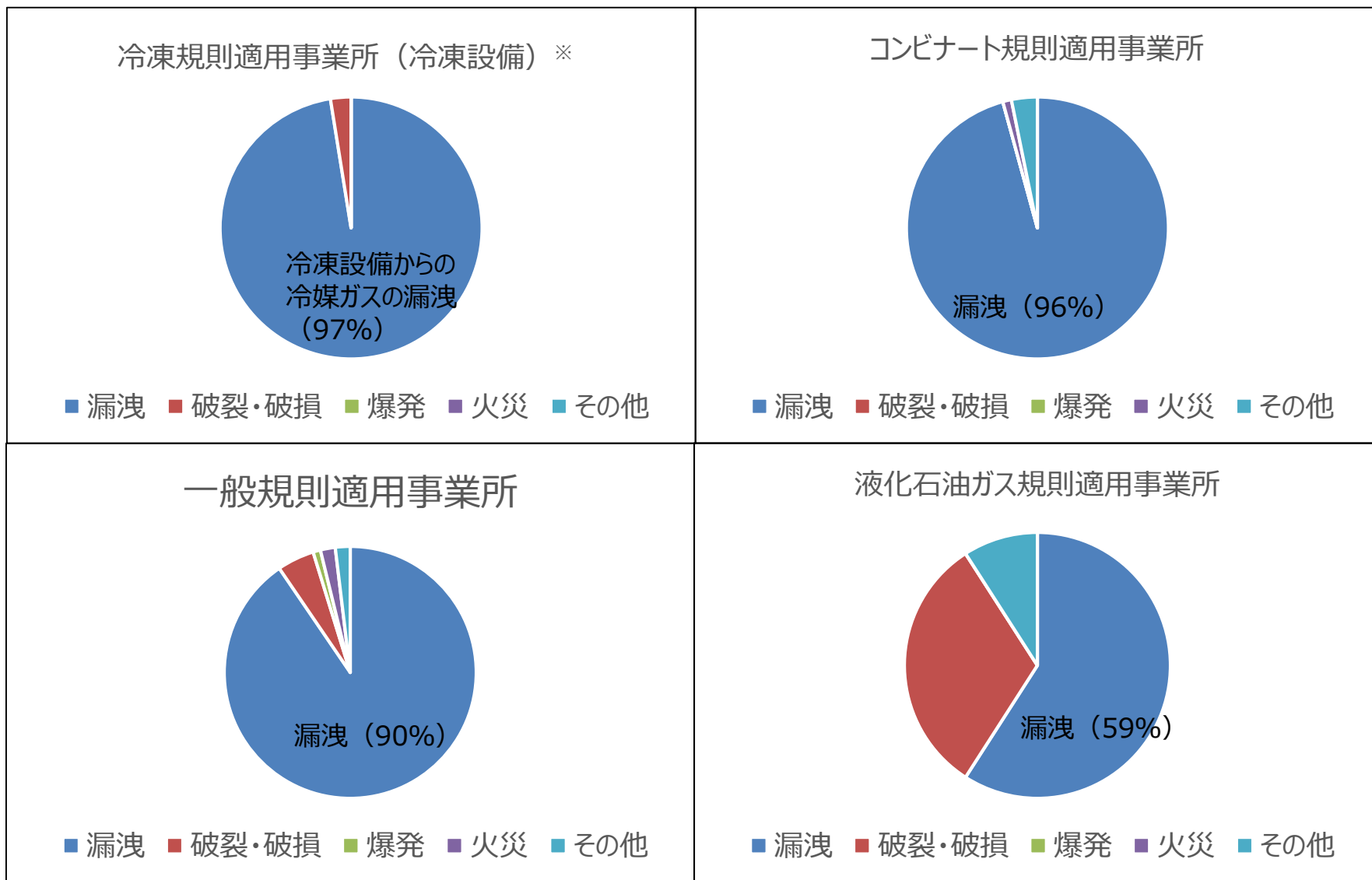
※ 3 高圧ガス保安法事故措置マニュアルの改正により、毒性ガス以外のガスが締結部から微小（カニ泡程度）漏えいする事象については事故対象外であることを規定。

製造事業所の“種類別”の事故届出件数の推移



- ※ 1 高圧ガス保安法事故措置マニュアルの改正により、日常点検等において簡易な措置で停止した噴出・漏えい以外の噴出・漏えいについては事故対象であることを明確化。
- ※ 2 フロン回収・破壊法の改正により、①事業者者に算定漏えい量が報告義務、②全機器を対象とした日常点検が義務化。
- ※ 3 高圧ガス保安法事故措置マニュアルの改正により、毒性ガス以外のガスが締結部から微小（カニ泡程度）漏えいする事象については事故対象外であることを規定。

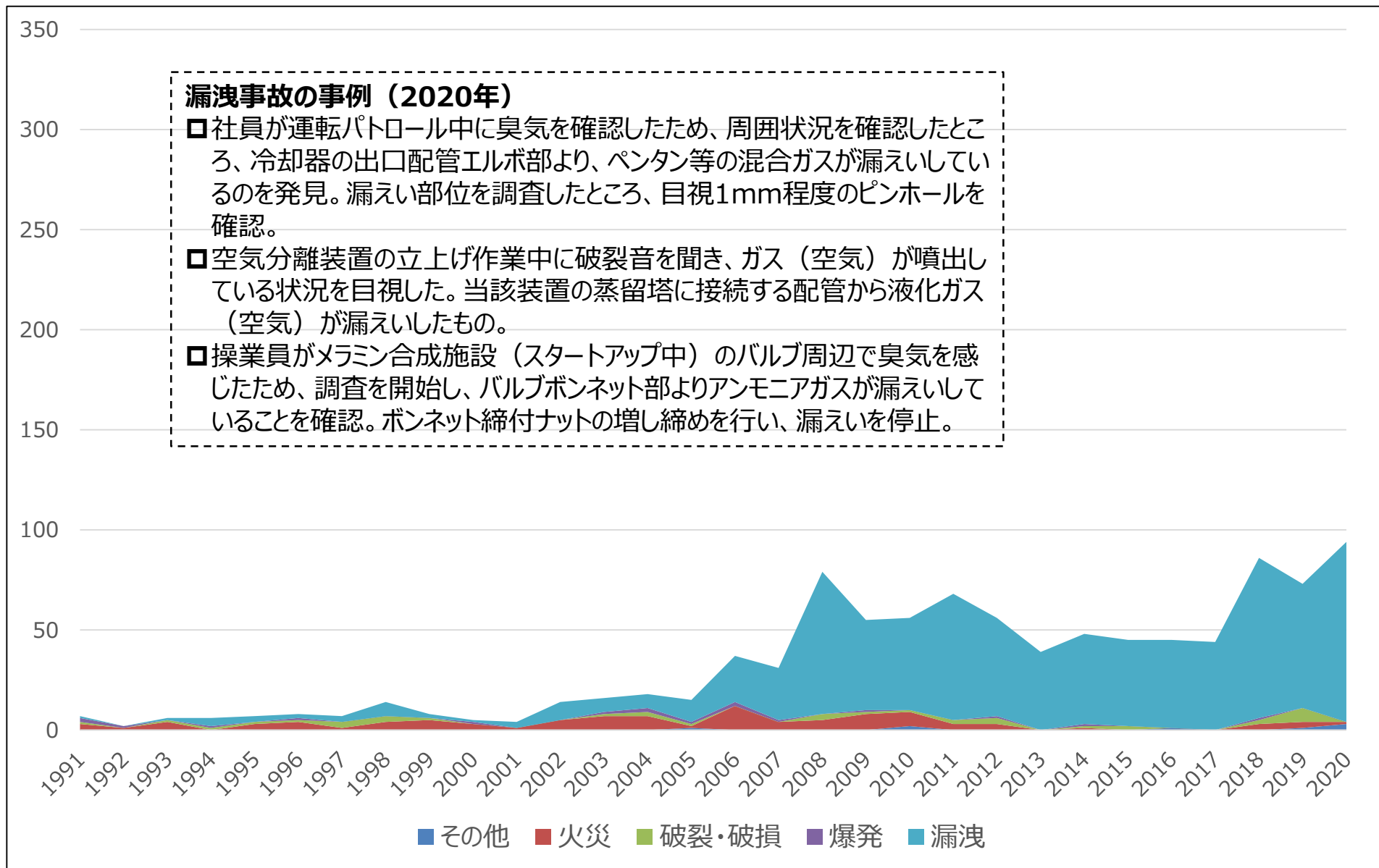
製造事業所関連の事故届出（事象別）（2020年）



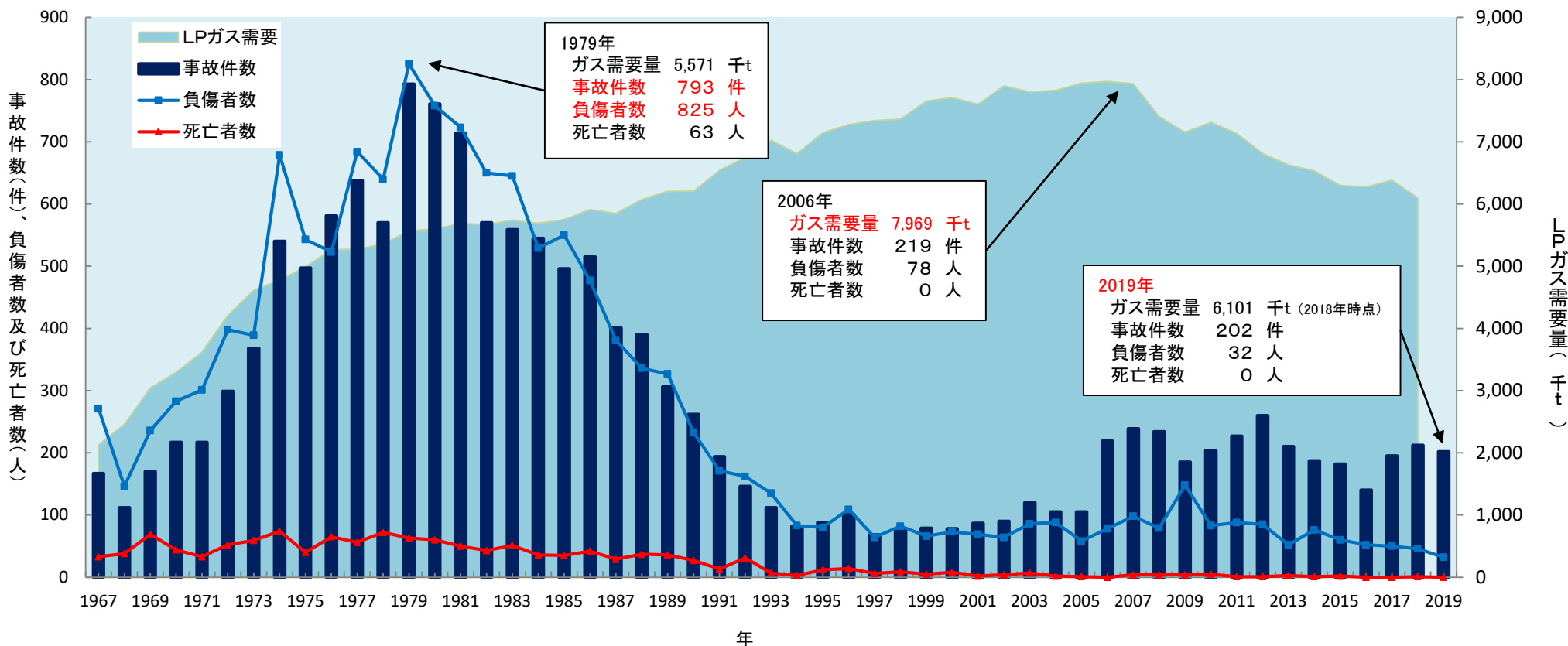
※冷凍規則適用事業所（冷凍設備）に係る事故届出のうち60%が「第二種冷凍事業所」に係るもの（分類可能なものに限る。）

（注）「第二種冷凍事業所」とは、「1日の冷凍能力が20～50トン（不活性のフルオロカーボン）等の事業者」（例えば、研究施設、学校、ビル、工場等。ただし、規模が大きいものは第一種製造者）

(参考) 製造事業所 (コンビナート規則) 関連の事故届出件数の推移 (1991~2020年)



LPガスの事故届出の推移



(注) 数値は、調査の進展により変わる可能性がある。負傷者にはCO中毒事故の症者を含む。

※2006年以降の事故件数が増加については、2005年の悪質な法令違反事例に関連した法令遵守の徹底指導や2006年のパロマ製湯沸器に係る事故発生に伴う事故届の徹底指導等により、潜在化していた事故の捕捉率が向上したためと推測される。

2020年4月～2021年1月に発生した高圧ガス及びLPガスに関する死亡事故について

- 今年度に入り、高圧ガス及びLPガスに関する死亡事故が6件発生（死亡者数では、高圧ガス5名、LPガス2名）。

(2021/2/5時点)

高圧ガス事故

- **2020/4/16 死者1名（製造事業所）（岐阜県）**
冷凍設備から回収されたフロンが充填された容器から、セパレーターを介して**別の容器に移充填する作業**を行っていたところ、セパレーターが破裂し、作業者が被災したものの。
- **2020/5/14 死者1名（その他）（三重県）**
高圧ガス設備である貯蔵タンクの法定検査における貯槽開放作業中に、協力会社の現場責任者が、マンホール開放直後に、**作業を予定していない窒素雰囲気下の貯槽内部に、許可を得ず自ら入槽し、酸欠により罹災したものの。**
- **2020/12/22 死者1名（消費）（愛知県）**
ホテルの機械式立体駐車場において、メンテナンス作業中、二酸化炭素消火設備から二酸化炭素が放出し、1名が死亡、10名が重軽傷を負う事故が発生しました。原因については調査中。
- **2021/1/23 死者2名（消費）（東京都）**
ビル地下1階駐車室内ボンベ室において、ビルメンテナンスの作業員が二酸化炭素消火設備の点検作業（作動点検等）を行っていたところ、二酸化炭素が放出し、2名が死亡する事故が発生しました。消火装置が作動した原因については調査中。

LPガス事故

- **2020/7/30 死者1名（福島県）**
飲食店で大規模な爆発が発生。1棟全壊、その他複数に被害。事故原因の詳細は不明な点もあるが、シンク下の腐食した配管からLPガスが漏洩したと推定される。
- **2021/01/14 死者1名（秋田県）（詳細調査中）**
一般住宅において、爆発火災事故が発生。1棟全壊、他詳細調査中。落雪により調整器のガス容器接続部及びガスメーターの供給管・配管接続部が損傷し、いずれかからガスが漏えいしたものと推定。雪下ろしの雪に囲まれた家屋の周辺や床下に、漏えいしたガスが滞留し、何らかの原因でガスに着火して爆発したものと推定されるが、詳細は不明。